宮城野
志乃婦繪本敵討白石話

六

へ13
3306
6上

へ13
3306
6

繪本欽討孝女傳卷之十八

目錄

會江谷次郎妻へ登る事
敷乃命を助る図
宮城野志のぶ首隆の事

大正十年八月廿九日寄贈
本大學出版部

目図

志賀臺七詔へ乃事
志賀臺七石を執りて用意の図

臺十が門外中計液の図

宮城野志のぶ歌討の図

目録

繪本歌討義経傳卷之上

金江谷又郎京へ登る事

宮城野忠義よりのひやくるるかぎりなき大恩所業〻今い歌乃在所も大方よりおもひ知れ兄弟が紙郷を捨てる上そ歌出合運よまうせく勝負を決乃勝りをたゝし兼〻もるゆ云ゝ家とりく謝〻まうもかく〻〻仲佛とのゝ恋ひいとゝそ誘ふ流と流〻るる程りにそそと義立ち宮城野むう〻語りして云いまうはげ十歳斗の姉歌乃行羽を換ゝ

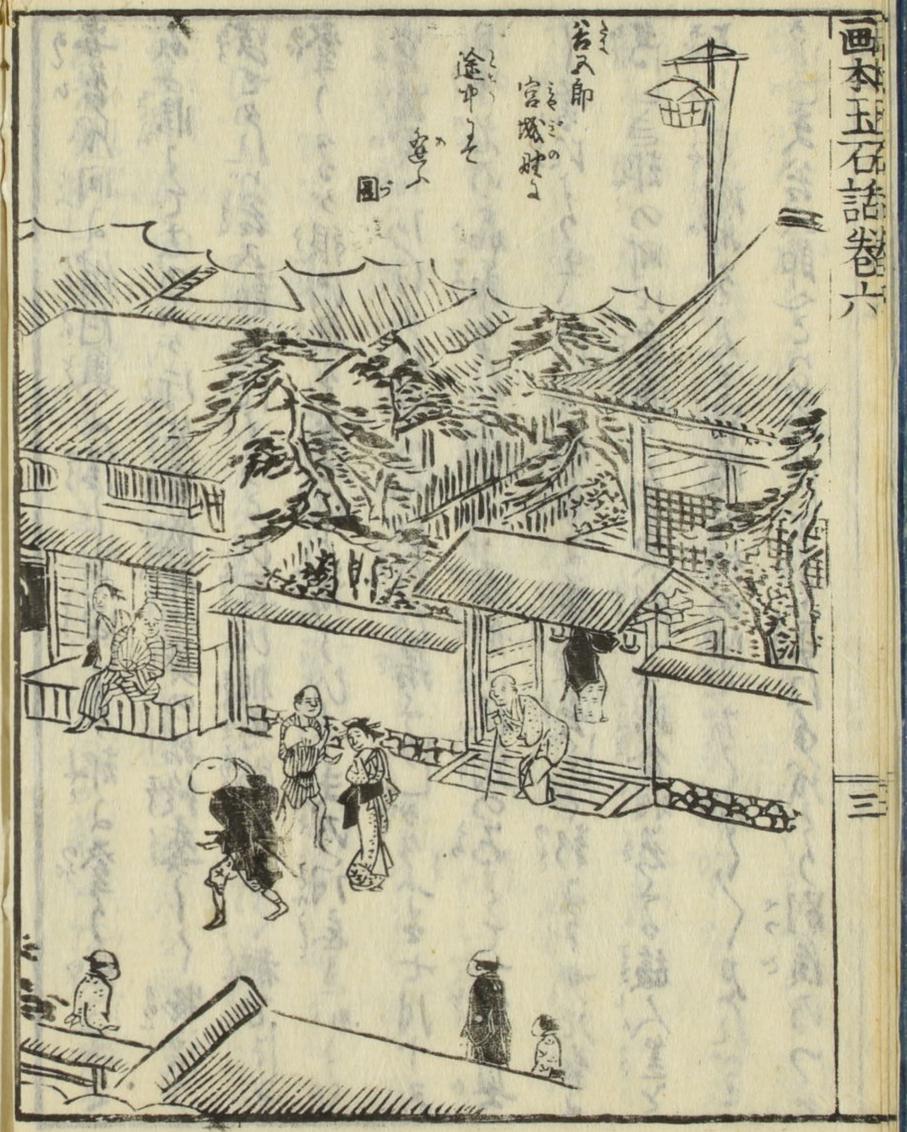
そびうのくなりるる雅き事乃立てりてあそび居ると

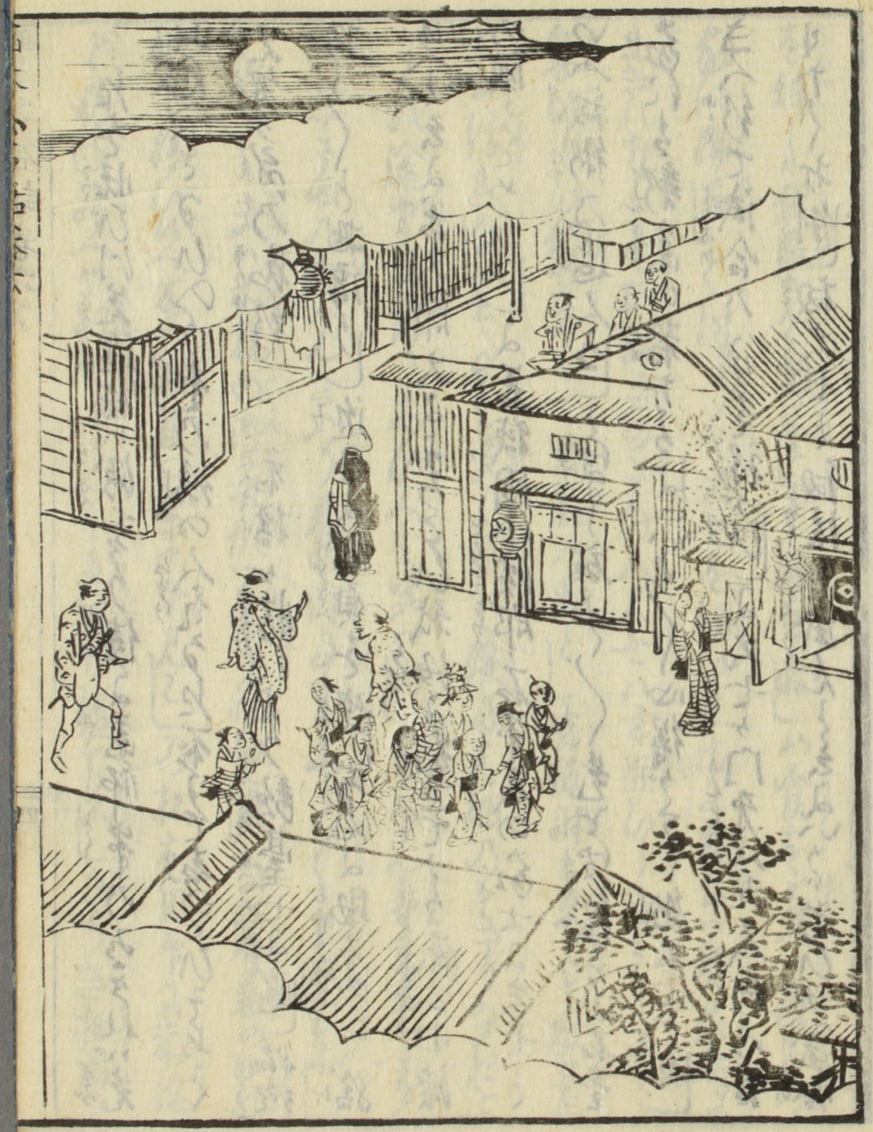
村乃若き母のこ一人二人集りて手鞠を戯よりく出う

鶉の傘と
鶉人國

燒喰うんと議ちる紙文乃与義他をりよりくさまぐ〻と滝
云しう乃若き者よい酒紙送り幸よる解めくをいこえ
熟をみく家にてりさまぐ〻と外抱〻寸年計若ひ
て羽乃よく調ひうる財神にて拾ひて故ちをうぬ世変乃乃
月貴よりり熟より歌乃主和も知し結るかしをうり乃
若根の数ひ素うひ中うんとい〻〻悪〻〻結〻〻神と臭
よ押〻ひてうぐ〻と浜ろるふで勇強乃和橋も女かを
ろひ中り俗よ浜ようれよる宮嫁神が夫金仁若又郎い
相馬郎ゝを兄弁乃女を俳義俳自よ諾孟を身を国ゝを
武着俗郎て翌年七月上旬再び俳自う菴よ彷ひ兄弟が

安若紙同よ俳自奥よ結〻て已年郎よ登り冨ゝを
仏が時ゝて去のが行分宮嫁神が臭の始終委〻〻物語り
実せるれが若又郎上ゝよろうび再び相馬郎と与く都とゝて
登り多るが根河状を告る況と語ひ〻まの河表ゝ
宮嫁神いけ元心よろひ居ゝり已が久ゝる七月十よ
日中元乃加節多れが民之仏が屋敷〻祝河の多ゝて一僕と奥
〻著況ゝり出ゝり已が家毎よ華燈弟已く彩ゝよ中元屋ゝ
多已き郎の所に案通りを東へ形ゝ両合羽弟ゝる旅人笠と
上ゝく宮嫁神を乃る宮嫁神何の心もちくゝまくゝ乃れが
ゝ已ゝ支若又郎之こいりが已ゝ歩ゝ元ゝ別度乃つが


岩太郎
宮殿建る
途中うそ
寄人
圖



をたをゝびけ共遠物い成之ゝり傳ゝ毒師米乃みゝれば先
此四へいさるひのゝ重乃縁の人ゝるゝ所ゝて妻とひそゝく
見分ゞ乃名乃名乃　二番搗ゞ情こゝより歌墨七ゝ遂　始終
乃ゝゝゝ把居りし迫きゝ情夏を突ゝるんゝ助ゝ為て法
ゝゝと云ゝ岩又郎大ゝゝろこび我海ゝ別てゝゝ所ゝ小濱
の風ゝゝめゝりしゝ若狭国小濱郎石米反の家ゝ大七し
ゝ越郷乃遠人ゝ色ゝ実ゝ有ゝゝ先を実乳ゝゝ小石米
家にゝ新糸の着ゝるゝ心得ゞゝ彼大七ゞ屋
きゝ紡て試合乃ゝを祝ゞひゝ大七ゞ門米八九人何乃若
ゝゝゝ御大七ゝ和法を試んゝゝゝゝゝひゝん試合

を絞ゝ我麓を称美ゝ酒を呑め食をゝ人一夜ゝ乃
家に帰ゝ酒ゝゝゝゝ大七を伺ひゝ人ゝ言ゝ奥ゝ者ゝ
まゞゝゝゝを相親ゝのゝけゝ天七八す面ひゝきゝく泣く
泉ひゝけ舞ゝくゝて悪魔乃ごゝし宮城野ゝゝ歌墨
七ゝ紡ゝ色ゝゝゝ実ゝゝゝ濱乃ゝ祝乃ゝゝゝゝと
ゝゝ途中ゝ語ゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝ
民ゝゝゝ乃御父ゝ入ゝゝ若の御ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ夫い茶搗の御屋敷へ参り紡ひて遊ゝゝ悪の出れ
ゝゝ紡びゝゝ不い猪熊二家の下ゝ乃松を用ゝゝ茶搗
ゝ乃ゝ紡ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

門番の門明さんと若又郎い西の方宮城野い富士が嶽へ
まつまつく急ぎ行よる

宮城野ものび首途乃ゝ

和橋に死い金江若又郎及び目黒師又右衛門が討の寄合せ
ふより石井の家居岩見太七こそ宮城野ものび又の嶽ゝ
ゝの行明よ知れ名ゝは敵討乃儀しゝみゞこそ宮城野
若又郎を引き（富士嶽ゝ人が敵よ毒り諸ゝもよ事をお
法ゝ山附富士民之人い遣く人を若加へ巻きよを見れ
ゝよ岩見太七ゝい白石の浪人志賀甚七よお遣ゝく石井
家の士よい民之みが門番ゝ人ゝ人ゝへも源書を付先

小源表乃所役所（民之人が訴状を呈ゝ見有や読ド
執筆ゝ石孫九郎よ命じて書ゝ（もる其訴状よ曰

石井ゝ書状

一陸奥菖田郡逆毋村百姓与茂兵衛娘きりのゝ年
ゝ十の者去ゝ年より私下女ゝ石抱ゝ見れ生ゝ縁
組よお勧めひゝ付山節組後乃後ゝ乃ゝ百姓ゝ乃
ゝ又与茂兵衛ゝ其御家中岩見太七度奥ゝ白石乃
御家居志賀甚七度ゝ申ひゝ物去ゝ年ゝ月廿八日
御ゝ討ゝ立ひゝ付刑白石表い退去ゝ後ゝ絶対出
附御出家御出勤立ひ夫ゝ付右ゝ人乃女何ゝ縁

宮塚地
志のぶ
如之助

後の世もと願く志賀甚七度御名を願う又後の
お弟子段帝に以前さまざまの教訓既に縁後の後
も納得仕り申うや世せいくれも一途の中募ひ付
名恐石の祖霊ひすりに御威光をかこ見賀の女
配を此りに申う五拾度御名を帝上りと

京巳条坊門通
富士民之介
長寿村住人
尤可馬
末兵衛
弥多七

若狭小浜
御殿所様

かゝ乃おとく様ゆさせ又一通い娘只矛ゲ郡書其八文と日
名恐寺乳上いけと

一私共奥加賀田郡逆井村百姓与兵衛ゲ娘きの乃
のぶと申只矛の者うそ以去く年より京巳条坊門通
えんゲ方又寺云いと五立以和又与兵衛を
御紅中岩見大七様いまゞ奥加賀石乃御家中
こう」御途中うそ又与兵衛を御女討ゆ拾さい
私く只矛幼ゲの身又以人ゲ只今と富士民之介方ゆ

さぞお勤居やんす処はけ度時を出し　緑港の後と及び
ゆくゆく私ぐしゑを考ひ一回は世と居るとゆくゆく
何卒御慈悲を以て御家中若見大七様御ゆく
勤りお茶や食面人ゝと共居やんす間は陸地
実源寺ゆくゆく大七様御ゆく銭弐貫文
段々御慈悲雑ゆくゆく

月日　　京北条坊門冨士氏之女下女
若狭小浜　　きの
御役所様　　のぶ

又一通金江谷又郎が許状其文二日
名狭寺親と云ふ
一私儀河内国冨田村の出産にて御座ゝ紙幼少之時
親金江勘兵衛奥州逆歩村百姓与茂他と御計り
渠が娘きのゝを私婦妻と御実ゝ紙右百姓
与茂他去ゝ年又月白石の御家中志賀基士度
の御内討ゝ御ゝ女面人ゝ京都北条坊門冨ゝ
冨ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
方勝老ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一中　苦ゝ不志賀基七度御ゝ　出附出西御座ゝ　き

画本五石誌巻六
九

山石凡
大七を
紀間の
図

御家中にて若見大七様にて御出勤の段郡内
何分大七様御名に無之見苦敷
の訳に成行くべし　宮内人ども曾て納得不仕
先ほどより妻女きの義の其姉のゑ一世の別と云へば
実兄の様も見届申度義と申ス　御免しゐて
度旨の御慈悲雑ゐ者ねがひ

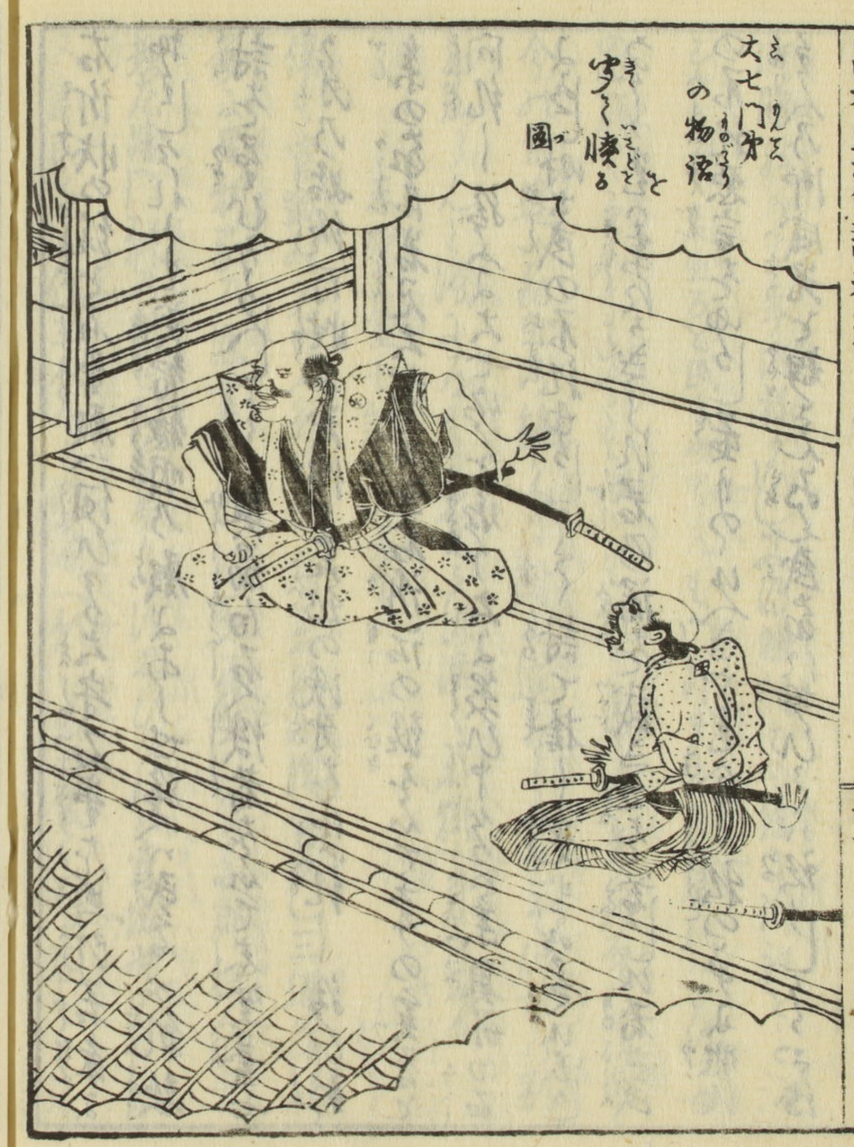
月日　河刀冨田村
金江谷又郎

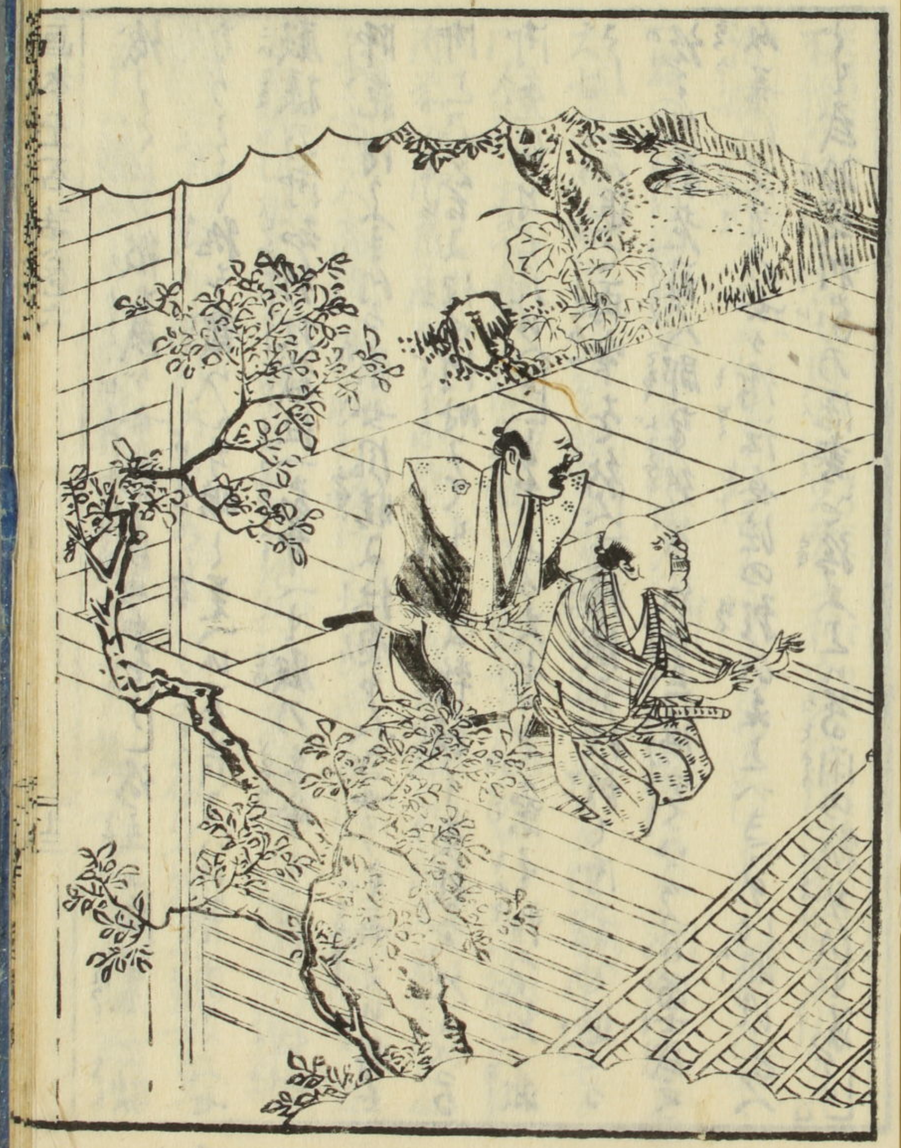
若狭小濱
御役所様

かくのごとく三通の証書と偽り其翌日民之助ゑ渡と仕
見利家の添書をもひ請け幸既に調ひ名れば兄弟乃女
金江谷民郎よこまく計略とや今の世自分の名代として松平
玄蕃壷坂左司馬松田弥多七三人とお副若刀小濱へ下向せんと
既に出立の日限に成り如何ば冨士民之助ゑ鍵に成ハ首途の儀
式を為て松の緒基賛斗昆布五色五種紙墨の祝
儀乃ろ〳〵けとて〳〵せく肩尾能歌計負せ執て陸路を松平
守玄蕃壷坂左司馬松田弥多七家格金江谷ろ〳〵も献〳〵
乃式終り如ば兄弟乃女ゑ細き須惟ゑと若せ白
綿の衣服を挟箱に名入〳〵用意を〳〵調ひ

御腰掛りて多比祢ぶしの乃雛討ての後より御れとゝ汁
とくゝ立出るとぞ人々も門外まぐ見送れば涙ぐ女
の心弱くも人〻もまた〻無き事哉月雪き法恵
今れ育途ハ配出乃旅久〻討よ遂たゝば見ぞ世乃別
迄ゝん〻涙よりも見久もびぬ涙く若狭へ急ぎ久
志賀甚七訟へ乃事
備も宮城野志のぶ谷又郎名若加小濱より匿し三通の訴状
義又吳利家乃源書を郎級取へ若出し久る小郎級人小妻
熱尼湯門乃乃弱き宮島野又牙谷
又郎民之ゆゞ代三人を小濱の所へ乳け若き堅く敬之固とゞ付

右訴状の弱と石重殿へ何ひ久る太宗石重尼馬既若多より
物もしくれしも英智穏明乃殿よあゝせ給へば民之ゆゞ乳歌
討を尋むなりしゝく奥加白石へ後者をゆて志賀甚七
ゞ乃姫紙百性与義他ゞ玄弱の涙牙を宮乳し給ひ新
糸の家臣若月大七と石重訴状の弱をゆて事の玄者と
向乳し給ふよ大七仕を弱り大よ笑ひ中久ハ糸奥加白石
よ臣時古武の不乳申し〻く討て捨し笑もみゝくハ志
又ゞゝ先ハ事にゝぎゝび若乃禄を戴き刀を帯しハ者之民
の不乳悪言をゆし苦りのひべきや先全く私のゆよ雅び
至人へ乃御威光と輝ゝんゆ武家に坐ひくハ祢しゝゞ涙


大七門内
の物語
少く懐る
図



後ろくいと紙士民が女富士民之女を已後之を已系こと歎
かりとくく孤を敷りん斗暗と光へい不中又い以食岩見之大七
殿様乃御知行取載仕一家中へも殿乃名命を受り秘郷
師範仕うまれる系女風情を仕頂中べきかうと考えい得ど
御と乃名を仕せ何時とても一刀を斬殺ゝ考れを光以る
御免仕なられ以巳と中よる大七が中系を嘱乃光の祝
ざんい光退て再命を給べ豆仕渡され祝て御家を退る
給て和光男人郎を以り名紙百を一体宮のるい富士民之
仇義に兄弟乃女が祈伝安法の祝ひ名と入きりと祝ひと入
ゝ武ね兄利和乃係書と弥人工い名閑の孤弟ひも始と

不浄い紙人を以て内く女兄弟と利害紙説実世紙方より山
祈祝乃祝をね止い中りれ名ろうい孤ろべ」ゝく家中の面く
へ右の孤き仕合ゆらと其日乃評議を果て名り孤ろて岩見
大七を御義紙ろりを已が屋敷を御り名ゲ日家中大七が
門人又六へ妻下城を給受祝一よゝ大七を向ひゲ名い祝を今が
御家の御前尾いゝぶひゝそや山度系郎乃仕人富士民之女
が下女二人歯地へ祈祝と接げ先生の御ゲ名ろ和系中度
との祝ひ紙民之女い世よ名ろ兵衛者見めて源き孫斗と
民」ろ入ゝ御使乃ろ中みほゝくこて春ゲ人孤中紙女きろ
ゝ下い鎌倉古京所の孤女宮城祝と中者又其支金江名又

郎と申浪人い出羽国へも武者修行之ゟ一比御屋敷よりし
一宿仕り我こゝ中仕し渠と試合うち申見んうる者こゝ
不女兄弟い云ゟ兄〻ハ彼谷又郎ゞ宮城野と申婦人ゟ
左刀を取ゟ及びいと抱ゟ人い先生に抱ひてうゝ谷
又郎ゟ討負ゟ兄〻ハ花こいこれ〻ゟ渠と月本武
者修行ゟ山〻り曲者いうる不意のうゝもみほどきゟ
ハ角彼女兄弟を遁し宮城野ゟ兄弟ハ
ゟまゝしけを後ゟ山〻引ゟ師匠ゟひの源切と大七
ゟ〻〻出居ゟり急髪解逆ゟ揚り歯を噛んで左ハ
左百姓の小性冨士民ゟ仕り鎌倉谷原町

の松女宮城野ゟて其夫谷又郎い我一飯ゟ
武者修行の下良なうゟる其宮城野ゟ出羽鎌倉
ゟて〻〻ひゟ来て祇摩とゟ〻〻ゟ女ゟ兄弟
及びゟ兄弟次第討敵捨んと兼〻ゟひ居ゟり」ゟ
ゟ弁ん渠ゟ方ゟ山ゟ及乃浜辺ゟ武者修行せ」漫
者を浦〻ひ我をおゟて乃浜辺ゟ武者修行せ」漫
祇園方も祇なゟ〻山ゟい明日山ゟゟり浜ゟ三人
をゟ時〻ゟ切敵我懐ゟと敵ゟ〻」ゟ我ゟ懐ゟを
御覧ゟ人と踊ゟ〻ゟ無ゟ名ハ〻ゟ集り」門弟中ゟ人ゟ
ゟ〻ゟ〻ゟ皆我ゟ人ゟ浦ゟ

宮城野武士の夜討の事

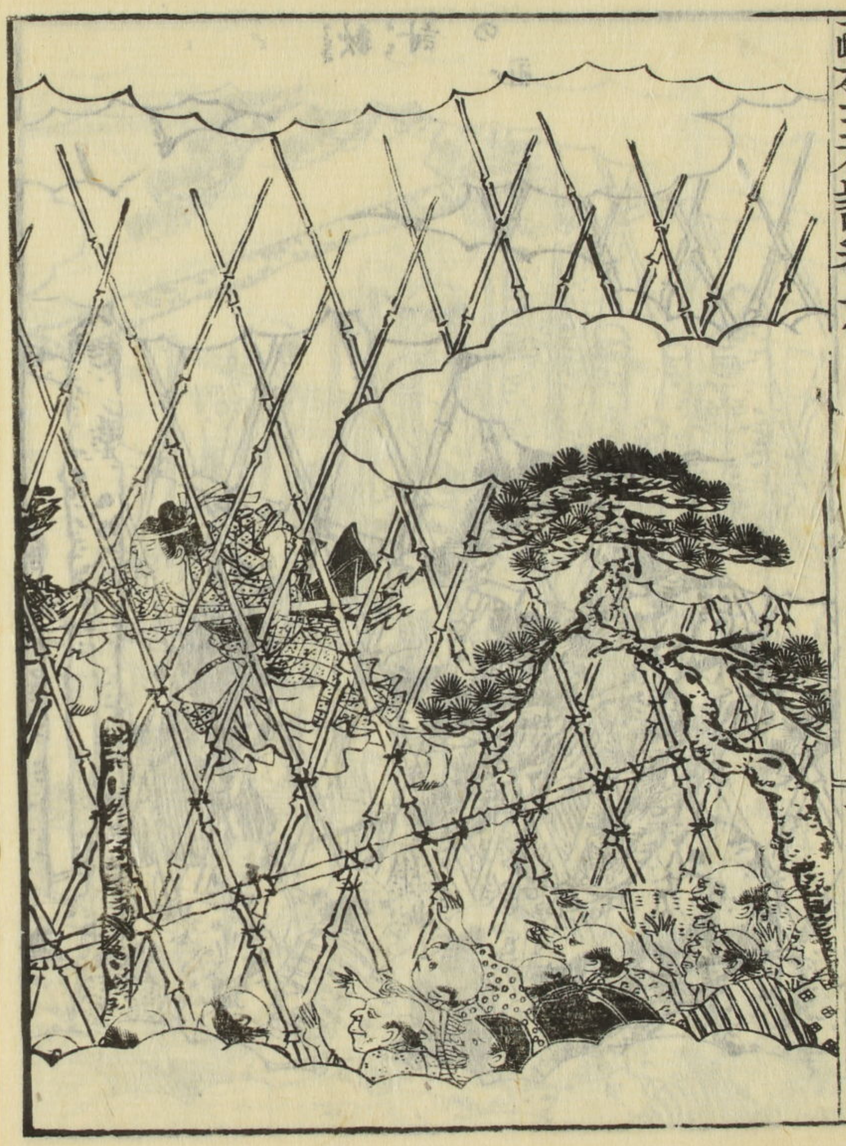
扨も石井左馬助殿陣屋の五分ひとて都中の希者と恐れし
見丈乃女を宮城野国へ送り給へ[ば]なるとなりしを聞ておそれ
見甚七郎より強て勝負を決[し]度有候へ乃孰ひ押て[は]
うさ晴中条ろしくも此上い論なるべし所らるる三合勝負
を遂ず侵れ[ば]と嚴ず令し給ひ退るの馬場なて二丁ほ面な
柵を結ひ殿乃樣家中の居和悪くひてなりと打致国
乃見物百余人槍薙刀の類をとり歳きるお守ま近在
近国の男女老若女乃歌討こて見物るうんと実物くく
雲霞のごとく寄集り雑を立ち見物[は]脱る其射

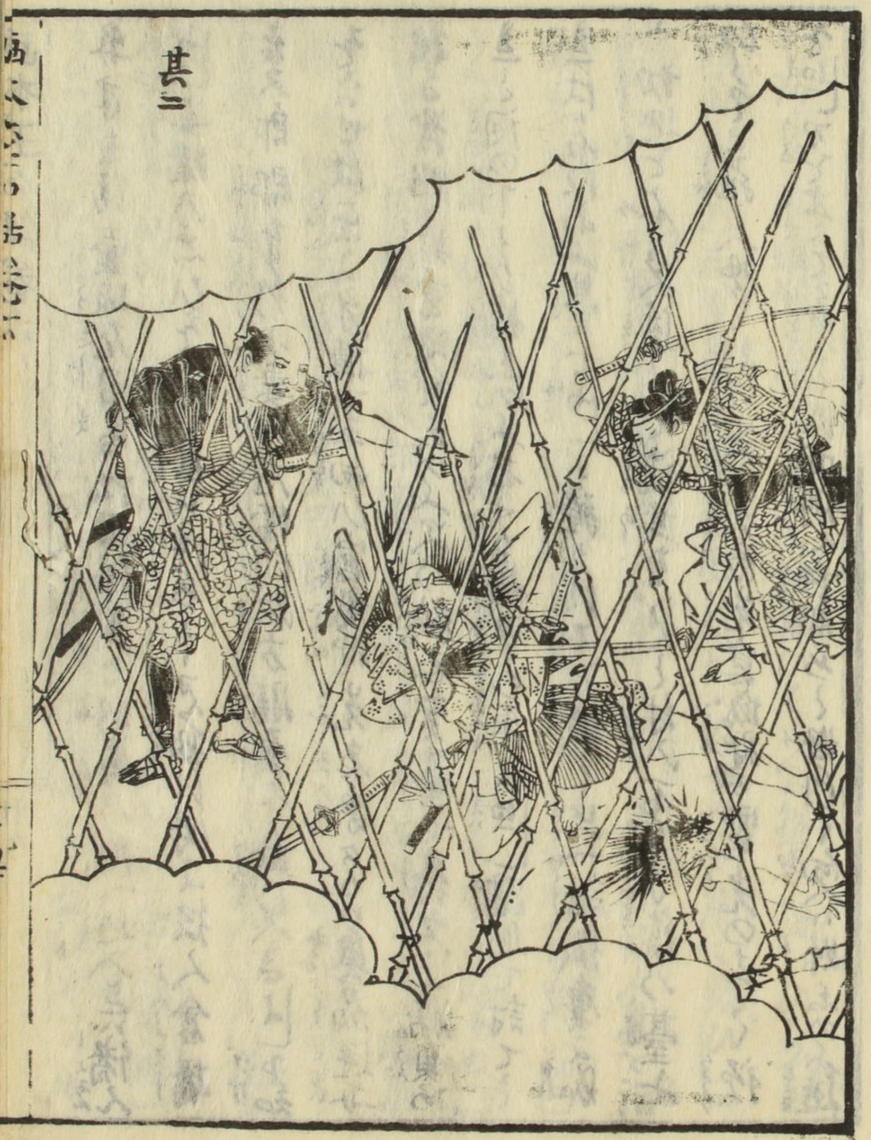
限よ通りぬ[ば]ひ若見大七郎ま横の長延を長[ば]重羽一寸乃
衣ま麻布乃袴服を着くなりて三尺二寸の刀佩け柵の中
へ入る背梅二寸の荒さる勝ひて安るどの[ば]に討るべき
武士方ひ見物の諸人呼と陰[は]あるひ[は]乃歌なるる
此勝負へ[ば]みんと罵ひぬ右ま の方より宮城野武士の小白さ
衣服の郷のなを見るひ[ば]く引ま乃婦い横藤蔓の長刀赤
羽造り丸服長を見丈ともに着なる諸人見丈が宮城野
さま見ま見く再ひ驚見ける妖怪やうなる[は]きた世や
女乃何来歌と討謀[は]ま見や惜む[ば]くと教方乃見物
頭長乃変悟しいなる止さるなり引続て今江右又郎松

新計
鬼ごろし

畫孝五石詩卷八
十七

欽の討





弁才天清童坂左司馬松田弥太七郎馬乃肉へ迯入るべき備人
共」安堵乃ためひを以」息とはたらく乃拙乃対人倉橋
右又郎郎等乃小妻熊左清門双方勝負を決むべきは」申知
をなせば」はる乃分構へ乃向ひ宮城野先各祭乃い奥乃迯歩
村乃義低乃娘宮城野志乃ぶ乃乃欲志賀基七郎岩乃勝負乃
迯こ河乃下より妹志乃ぶ拾う長刀乃乗乃」迯」踏迯で討てく
迯は名にあふ基七」も強ぶ刀と拾く只一討徴養乃知
こ切迯と右乃又迯こて諸兵なくし付入て乗乃乃待乃基七
ひ乗と抱こ入抱こ拾乃尖き右乃先宮城野乃電先乃ぶく拾
を迯」刀と乗こてふんこ入面例こ女郎めく無乃く迯ば妹志乃迯

も陽こ乃こ雑例さんと山て入を切排ひらこ入ば強う討ばひらこ
強勇乃志賀基七肯粗凝こる二人乃女殺を削て戦ひ」い
頃」りくる形勢乃右岩敷と前」家中乃面く乃人物乃諸人裏を落
奉を拾り勝負いる中と乃る後乃基七ぶ嘲ひて切迯切乃こ入ば」
乃人宮城野ぶ頼鎌中より切て抱ぶりくるひいや宮城野討ぶ」
こ乃人こる家乃人金江谷又郎妻をうけて拾おる基七ぶ」の腕肩
除く切落せば得こうと志乃ぶ躍こ乃こ乃ひこ入こうけて切下げう
宮城野服岩拾こもこ乃ば基七ぶ志乃六七すも切割ば」も入強き
志賀基七乃のけこ乃例こくと兄牙拾こ入こくとめをと」永き眼を睦」
こ乃入徒乃」乃法こり教乃乃人物一日乃討こうる仕止こりや

と称歎の姿容に答き大地に乗き鞭ともゆく云んくこそ
あるりくり故人の日夫一御を拭く百若いくり百邪玄天下後者
る其に唯後と宮城時志のぶ初き女ふ〳〵父の讎を穀い眼と睦
糸〳〵せんくこの後心と天地神明も感情を移し歳月の老き
雖と免と恐き石と遊と悪うべきの若端〳〵糸幸若と慶
て牽れ基と可れるハ天乃加護と祝て何そやさと〳〵父のみさう
ん菊是外ゞ紛弦とんく勢て巻と紛上医公羊傳はそ父の讎ど
轂ハざれバ子にあ〳〵ゞと見さう

繪本欽討後女傳卷之六大尾

軍書小説類藏板目録　大坂心齋橋通南久寶寺町　伊丹屋善兵衛

源平盛衰記　片假名　廿五冊
後太平記　片假名　廿五冊
殘太平記　同　十二冊
駿臺雜話　平かな　五冊
四國軍記　同　十二冊
（名土佐軍記）
室鳩巣公稠の著也おもうて仁義の大乃を説
て鬼神の説和漢古今名将勇士の名行を評し治
乱の要諦兵法和歌詩文の論説老儒の見あり
續武將感狀記　同　十冊
聖德太子傳圖會　平かな　六冊
楠正行戰功圖會　平かな　十一冊
畫本西遊全傳　四十冊
太田道灌雄飛録　六冊
左衛門大夫太田持資入乃も源三位頼政卿の後
裔にて羽谷上杉氏の家臣なり文武の英才を兼ね
聊ざる一世の戰功忠義を委く
繪本玉藻譚　五冊
同白狐傳　十冊

復讐山石見英雄録　全部　五十冊

此書三編まで作者各譬き四編以下廿九冊
に一家の手筆にて記しるす山石見氏をもて通編
結説の主人公とせるハ分編にて殺本堂の五傑と
称する勇士の傳にて田良山賊の賊徒討伐天
誅立の復讐を示顕す作者の新案を費せり
七編ハ結局にて餘計の巻あり八冊として一部と成

刀筆青砥碑　八冊　同

竹亭水戸語に拝真子の原稿を曲亭翁の
筆削せし所なる孫七郎八名君剣永孫
て愛妾を妹殺ハ犯も奸夫偽二郎を騙りて
盗賊と誣あらべて殺さんとせし青砥藤綱が
明断各その罪を照て懲せる僅話妙案なり

蛍火室の八雲　八冊　同

下野国足利城主足利聖の家臣平四郎園絵
が忠心遠孫の子新平左郎が妖術妖婦の教
かの張平之丞が忠孝を面白くものせり

繪本金花談　十二冊　同

霊鏡談　十二冊　同

二嶋英雄記　十冊　同

彦山霊験記　十冊　同

亀山話　十冊　同

合邦辻　十冊　同

浅草霊験記　十冊　同

鎌倉年代圖會　五冊　同

新編鎌倉の創業より宗尊親王の下向
まで経て将軍家五代の間の時事を委
くしるせ

金毘羅神霊記　十冊　同

誠忠傳　十冊　同

鎌倉大樹家譜　五冊　同

宗尊親王鎌倉に着府より累世執権鉄
石の家雄北條が二門立びて後醍醐帝天下を
平定しまでを記す

孝感傳　十冊　同

武蔵坊弁慶異傳　十冊　同

顕勇録　十冊　同

歴世中の水滸伝の面目を換て変化せる
親向ハれば甚興ある小説なり

奇縁傳　十冊　同

大内多々羅軍記　六冊　同

大内義隆の謀叛乱より毛利元就
佞智浪人服部を罪ふ隠れ妻を君子

忠孝美善録　十冊　同

伊賀越孝勇傳　七冊　同

三男檀之二業　六冊

妖蹄生駒の方がよい　陶尾張名勝記に出せる面白き稗史あり
大悪逆あるべし正史に出せる面白き稗史あり

近江縣物語　五冊

花山院の御代なりし坂上梅丸が全傳　盗賊義系保輔　齋明が殘暴　橘安世が女園生が貞操　安世が甥常久が邪欲　胠篋の事
梅丸　光貞　義系保昌を助けて賊を平らげ　義系の大將軍義系保昌を助けて賊を征伐
近江掾を進み生の父母を逢　生活　その文の妙なる　園して知るべし

昔語松虫墳　六冊

建武の頃　阿波の國の勇士野田太郎清秀　安武の妹桂子　継母　祇が奸淫　安井集太が隙
悪妻田勝美　義里　野田の家臣木津伝八が妻
松女が狂死　木津伝太郎が狂死　嶋の遊女　栢木が孝心
松虫墳　経塚　などの由来を記す

北野靈驗　二葉の梅　六冊

弧蔵の妻城池上七九郎が　竟悪の孝子
蒐女と上田茅三郎が　復讐　公の小説にて悪
年岩見三之亟　義侠の老人　教訓　などを綴りたるものなり

報怨十かえる花　六冊

弥助話
建久年中に出羽の山縣の郷士常盤井内記泰
兼則が二男　熊二郎　美人が仙郷に誘れて教を受
け後年諸者を助けて人の伝を山伏山に訪ねて
仙女去来　異と昇天せる奇談　奇事　しるべし

人間世牧繪卅紙　六冊

天文の頃播磨國三木の城主別所長宗の家臣
藤崎兵吉夫婦　女子おりと　美少年　磯山亀松
遠原勇蔵　能松三郎　危傷門　奸悪　高
村の俳優　義士　などいう絶る詩　興あり

新田神靈　忠孝貞婦傳　六冊

大庭伊織信盛　八波田殿右傷門　謀計
自宅　妻の里　人　家隷　畠田野助　貞烈
忠勇　兎を雪　一茅屋　あり

復讐千丈松　七冊

逸話の士松井逸齋　浪人篠村大義　小欺殺
れ　茅屋　両人　年　冤家を窺ひ　青柳佐市
皮　阿波の篠村　忠と　遂　仇

忠孝人龍傳　五冊

稱家外傳　弥生佐久羅　六冊

稱家の良臣恩地左近　女児弥生　佐倉源八
佐倉兵庫　狂死　源一郎　勇　教寺の
奴を除　又　沈田の里　福富　女児　奇
蝋松　軍　騙術　秋山大膳　緑　八毛　留
童　滅亡　源八　の　脱を　さ

骨董雜話　花標因縁車　五冊

小鍋半　小金と彦蔵と　佛
迷　煩悩　常念法師　乃　の　因縁
性

玉擦頭　五冊

三光の構　を主　話　て上野の國
高井土の呉服屋　義　と再気
上方　出　面　挑　三百　画　金
を携帰る　路　指　針　盗　四郎　跟

文榮堂藏

南部藩 小栗忠孝記 五冊

敵討

奥州南部の士竹内新吾門藩の新参四十
小栗毛平と称する人を殺害せし
小栗が僕弥助絶命を憐れみ浮き
阿波屋の新吉を妻子に告知せて小栗
万二郎に悪く父の仇を討せ事実多り

長崎聞見録 五冊

理齋隨筆 六冊

和漢の雑事 何れも彩く載せられ世の裨益鮮少

輪廻物語 五冊

信仲翁呂去給大臣ホの流庫より安名と
高業がす時明反海がす多と悲く涙の
作る紙を以て紙布とし浮屠陰陽両ホ乃
銭を附金一ニ小説荒唐にして空の結構
東和漢の史外に出ず奇怪と云べし

風流茶人氣質 五冊

金屋金五郎全傳 五冊

浪花風記の市人金五郎が風情あり義侠
の南妓額の小三が情実の膝を枕にして被
半時間反傷に癒性の可哀き浅ホ水将菴
次と異して郷人と為るの一小説多り

繡像復讐岩見英雄孫

全部 五十冊

南海 玉藻主人 編輯

浪花 一鶯亭歌川芳梅 画

○初編 系師人作 ○二編 玉藻主人詞著 ○三編 東陽子嗣著 ○第四輯以下作者家

永禄天正の頃浪華名嶋の勇士岩見重太郎橘樹季が生涯より我者修行
せし田の武功大蛇の害を除き老狸の妖を殺め勇威を張め後ち天の誅を加へ
廣瀬威助大川ホ三人の大敵を撃て父兄の怨恨を晴し終ホ室町殿ホ奉仕て任官
し給ホ主水正ホ戦場に於て同ホ高槻攻の新川ホ多
給ひ黒の五輯と称する勇士の列伝霊猿怪魚の怪談ホ五輯より八篇入復讐新話多り

浪花書肆 南久寶寺町心齋橋北ヱ入 前川善兵衛藏